

第3B(中)分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 地域に信頼される学校づくりに向けた教頭の役割
サブテーマ ~家庭や地域で、学校で学んだ力を発揮できる生徒の育成を通して~
協議の柱 学校が地域とつながるために、学校組織をどう構築し機能させるか。
また、地域の方々からの声をいかに多く集めていくか。

提言者 佐伯市立東雲中学校 一法師 直 喜

1 質 疑

- (1) Q 地区コーディネーターとはどんな人なのか。
A 校区内の公民館に在籍している。学校が職場体験や福祉体験等を行う場合、対象になる会社や団体と学校の間で連絡調整をしてくれる。

2 協 議

- (1) 地域とつながる学校組織の構築とその活動内容は、地域により差がある。地区コーディネーターの配置状況や教職経験の有無などにより取り組みの状況が違う。また、地域の声を集めるためにはCSの実施や学校公開を活用することが考えられる。
管理職が地域の会合等に出かけて地域の声を聞き、職員に伝えることも大切である。
- (2) 広域人事が実施されている中で、管理職や地域担当だけでなくより多くの職員が地域と関わっておくほうが学校と地域の関係が安定する。また、地域の声は学校行事等の際にアンケート調査を実施することで情報収集することができる。
- (3) 地域と学校がつながることで生徒が社会と関わる機会が増える。地域人材の活用が、教職員の業務の軽減につながっている。地区コーディネーターが、CSに関わることで管理職以外の窓口になるのではないだろうか。学校行事・地域行事等とおして地域の人々と関わることで情報収集になる。

3 指導助言

- (1) 社会に開かれた教育課程を実現するためには、学校・家庭・地域・関係機関との連携・協働が重要である。このレポートは、CSを導入する先駆けとなるものとなっている。
- (2) 保護者とつながることが地域とつながることの始まりになる。学校は、保護者や地域社会とつながるパイプをより太いものにすることが大切である。日ごろの学校・家庭・地域の関わり方が、昨年度の台風18号の被害に対する生徒が自主的に復旧作業の協力や地域行事への協力につながっている。
- (3) 少子化の中、特に小規模の学校は学校の活性化のためにも地域との関わりは、学校にとって不可欠である。また、小中一貫教育の地盤があるので、それを生かした取組が、今後の学校存続にもつながっていくと考えられる。今後とも、「子どもが主役」の学校づくりをすすめてもらいたい。